

**基礎セミナー
訪問****工夫凝らし33講座**

本学の初年次教育の目玉である「基礎セミナー」。毎年、担当教員が工夫を凝らした講座が目白押しです。本年度開講の33講座の中から3講座を紹介します。

経験と記憶は伝わるか

向井 良人准教授



写真集を手に学生に語り掛ける吉永さん（左）。中央スクリーンは芥川さん

「語れない記憶をいかに語り継ぐか」という命題のもと、オンラインを利用したフィールド学習を展開しています。22日（水）は「水俣・写真家の眼プロジェクト」と連携したワークショップを開催。土呂久や水俣を長年記録してきた写真家・芥川仁さんがzoomを通じて講話を行いました。芥川さんは学生からの事前質問に答える形で、フリーの写真家となったきっかけ、44年にわたる水俣とのかかわりなどについて話しました。また、原田正純医師らの名前を挙げ、「患者の側に立つことで見えてくる風景がある。先人の生き様に学んでほしい」と学生に訴えました。

同日は、芥川さんら9人の写真家がネガフィルムやデジタルデータ、取材ノートなどの一括保存・管理を目指して結成した「水俣・写真家の眼プロジェクト」の吉永利夫事務局長も学生の前に立ち、写真記録を「人類の遺産」として100年、200年と残すことの意義を語りました。

井上 加奈子講師

「癒やし」について実際に体験し、調べて分かったことをメンバーで共有することを目的としています。いったい「癒やし」とは何でしょう。どうすれば癒やされるのでしょうか。15日（水）は「香りと癒やし」のテーマで、アロマ石鹸とアロマスプレーづくりに挑戦しました。初めての挑戦に「楽しかったです」と笑顔の学生たち。普段どんなものに癒やしを求めているのか尋ねると「猫などの動物」、「入浴剤」などと答えていました。



園上さんとヨガを实践する学生たち

医療と人に寄り添うヨガ

岩下 佳弘准教授

医療の現場にも取り入れられているヨガ。本講座では、文献・資料の検索、プレゼンテーション、インタビューなどを通して医療ヨガへの理解を深めていきます。22日（水）は、なかがわ整形外科（熊本市北区）で医療ヨガを实践する理学療法士の園上秀美さんを講師に招き、実際に体験しました。学生たちは、園上さんの指導で安定した姿勢をとった後、徐々に呼吸を整えると、気持ちもリラックスした様子でした。



完成したアロマ石鹸をラップで包む学生たち

午前中はゲームでメンバー間の親交を深めた学友会研修会



3年ぶり杏祭に向け準備計画

学友会
研修会

学友会メンバーの親交を兼ねた研修会が18日（土）50周年記念館であり、72名の参加者がゲームを楽しんだほか、3年ぶりに開催される杏祭（10月15日）の準備計画を作成しました。

新会長の松山直央さん（リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年）が進行役を務め、午前中、参加者はKahoot!を用いたグループ対抗クイズゲームを通し、学科・学年を超えて親交を深めました。

午後からは、杏祭のステージイベント計画や、模擬店の募集方法の確認などを担当部署ごとに行いました。杏祭経験者がいない中、先輩方からの杏祭引き継ぎ書を確認し、わからない事は教職員に聞きながら、4時間弱で部署ごとの準備計画書を完成させました。

今年の杏祭は例年に比べて準備期間が短くなりますが、感染対策に十分に留意しながら新しい形で実施する予定です。ご参加よろしくお願いたします。

（医学検査学科・永田和美准教授）

松尾講師に 最優秀演題賞

九州作業療法学会

「九州作業療法学会2022in佐賀」（18、19日、佐賀県）で、松尾崇史講師（リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻）が参加56演題の中から最優秀演題賞に選ばれました。



学会はwebでの開催となりました。

松尾講師は「健常者における言語を用いた音源定位に対するプリズム順応の影響」と題して発表。健常者を対象にプリズム順応が音源定位に対して直接影響があるかどうかを明らかにするために、定位方法に言語を用いて検証しました。その結果、プリズム順応は直接的に音源定位に影響を与えるのではなく、頭部や腕の固有覚の変化に伴い間接的に変化する可能性が示唆されると分析しました。

松尾講師は「本研究は本学に着任後、初めて自身の研究室に来てくれた学生達に実験を手伝ってもらいながら実施したものになります。『大学の学生教育で最も教育効果が高いのは、研究活動を学生と共に協業すること』だと日頃から考えている私にとって、今回の賞は非常に意味があるものでした。引き続き精進します」とのコメントを寄せてくれました。（安部悠介）